



私たちの歩みは、止まらない。
信頼に応え、使命を成し遂げてきた誇りは、
困難に立ち向かう強さを与えてくれる。

目次

株主の皆さまへ.....	03
長期経営戦略(2015年7月~2021年6月).....	04
2015年6月期 第2四半期 連結決算ハイライト.....	08
News Gallery.....	09
「夢は世界をかけめぐる~海外技術協力のパイオニア~」久保田豊伝記アニメDVDが完成.....	09
広島豪雨の緊急災害対応に対し、感謝状を受領しました:広島支店.....	09
黒川紀章事務所より事業を譲り受け.....	10
株式会社工営エナジーを設立.....	10
カーボベルデ共和国サンティアゴ島上水道システム整備事業を受注.....	10
ベトナム国南北高速道路(ホーチミン~ゾーザイ間)が完成.....	11

株主の皆さまへ

2021年6月期は、 グループで売上高1,400億円、 営業利益140億円を目指します。

株主の皆さまにおかれましては、日頃より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当社は、昨年12月31日をもちまして2015年6月期 第2四半期を終了しました。

当期の当社グループを取り巻く環境を概観しますと、国内コンサルタント、電力の両事業においては国土強靱化基本計画やインフラ長寿命化計画の決定、東京オリンピックに向けた施設整備、電力会社の流通網整備に向けた投資、電力固定価格買取制度(FIT)を利用した水力発電設備の更新・新設需要などを背景に堅調に推移しました。海外コンサルタント事業においては、わが国の政府開発援助(ODA)は、内容を変えながらも一定規模の事業量を維持しており、アジアをはじめとする新興国の開発需要に応じて政府主導のインフラ輸出がさらに促進されるなど、旺盛な民間開発投資意欲にも支えられて、市場は活況を呈し続けました。このような状況のもとで、当期の受注高は前年同期比2.1%増となる450.5億円、売上高は前年同期比2.2%増となる168.4億円となりました。

また、2月末には当社グループの2015年7月~2021年6月の長期経営戦略を発表いたしました。

詳細については次頁以降でご説明しておりますが、2021年6月期の売上高1,400億円、営業利益140億円という目標達成に向け、ご期待にお応えできるようグループを挙げて努力してまいる所存です。株主の皆さまにおかれましては、引き続き温かいご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2015年4月
代表取締役社長

有元 龍一



安全・安心な社会基盤と豊かな生活空間づくりに価値あるサービスを提供し未来を拓く

当社グループは、中期経営計画 (2012年4月～2015年6月) において、「グローバル展開の強化」と「新たな事業領域の開拓と形成」に注力してまいりました。この間、海外事業拠点の整備、小水力発電事業への取り組み、技術品質の向上を進めるとともに、決算期を変更するなど、経営の諸政策を鋭意断行してまいりました。現中期経営計画の最終年度となる今期の売上高は、810億円を予定しており、目標値 (750億円) を上回る見込みとなりました。

このたび、3カ年の事業成果の余勢を得て、企業価値の一層の向上を期し、向こう6カ年の成長シナリオを描き上げ、新しいグループビジョンおよび長期経営戦略 (2015年7月～2021年6月) を策定いたしました。

その概要につきまして、以下の通りご説明申し上げます。

1. グループビジョン

安全・安心な社会基盤と豊かな生活空間づくりに価値あるサービスを提供し未来を拓く

「安全・安心な社会基盤 (づくり)」はこれまでの事業を着実に実施していくという意思、「豊かな生活空間づくり」は、都市・物流・建築といった新しい分野にチャレンジしていくという意欲を表しています。そして、世界中の人がいきいきと暮らすことができる未来に向けて、惜しみない努力を続けるという決意が込められています。

2. 長期経営戦略 (2015年7月～2021年6月)

(1) 基本方針

グローバルなコンサルティング&エンジニアリングファームへと進化を続ける

現中期経営計画でも掲げております「グローバル展開の強化」をさらに進展させ、グローバル企業への進化を遂げることを基本方針とします。

(2) 事業戦略

① 主力3事業の伸長による既存事業の長期持続的な成長 (現状売上高 約800億円⇒2021年6月期 売上高 1,000億円)

国内コンサルタント事業、海外コンサルタント事業、電力エンジニアリング事業の現主力3事業について、それぞれの事業環境の変化を捉えながら、着実な成長を目指します。

■ 国内コンサルタント事業

技術・品質の向上による既存顧客のシェア拡大

地域特性に合わせた施策展開・地域連携の活用と地域的・分野的な補強

重点事業分野 (「防災・減災」「地域創生」「マネジメント」等) の拡大・展開

■ 海外コンサルタント事業

リージョナルエンジニア育成による生産体制の拡充

ODA事業のシェア拡大

新分野 (都市型事業、PPP等) への展開

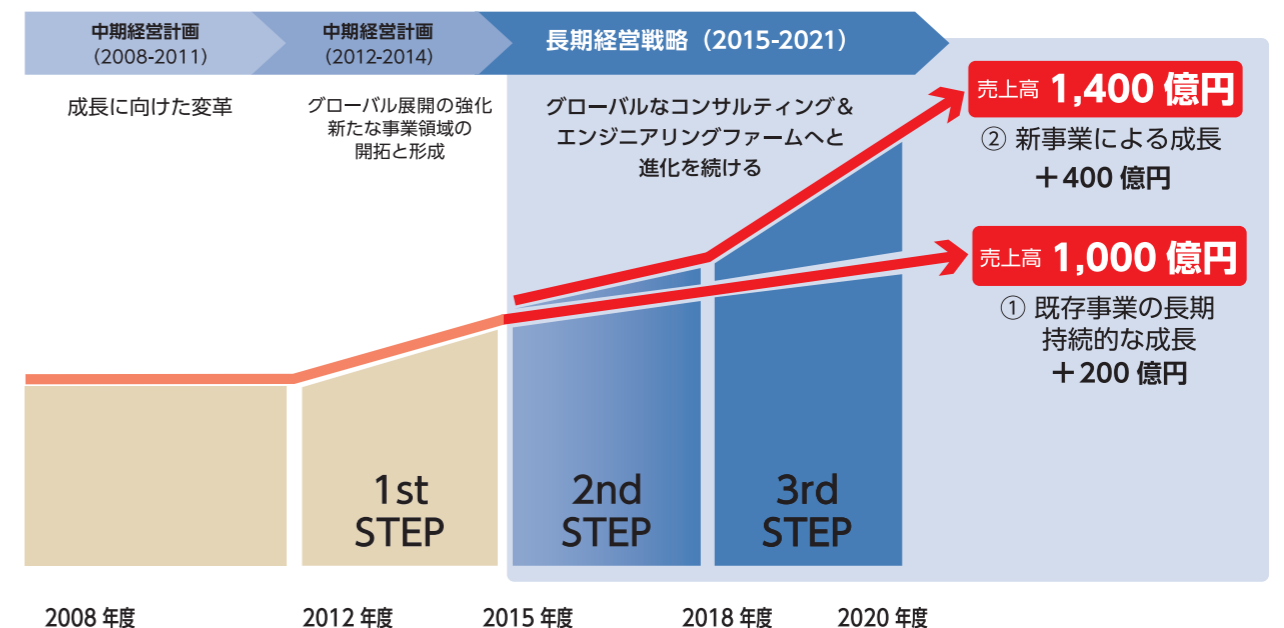
■ 電力エンジニアリング事業

電力会社の次世代システムに対応した技術開発推進、価格競争力の向上

新市場 (デマンドサイドビジネス、水力発電等) の開拓

② 新事業による成長 (M&A 投資および事業投資型ビジネスの展開) (2021年6月期 売上高 400億円)

成長著しい都市開発分野においてM&Aを行うことで成長エンジンを獲得します。また、当社の知見を活かすことができる分野での投資型ビジネス (発電事業、PPP、コンセッション事業など) を展開します。



(3) 全社共通の経営施策

成長を支える経営施策として以下の3つに取り組みます。



3. 数値目標

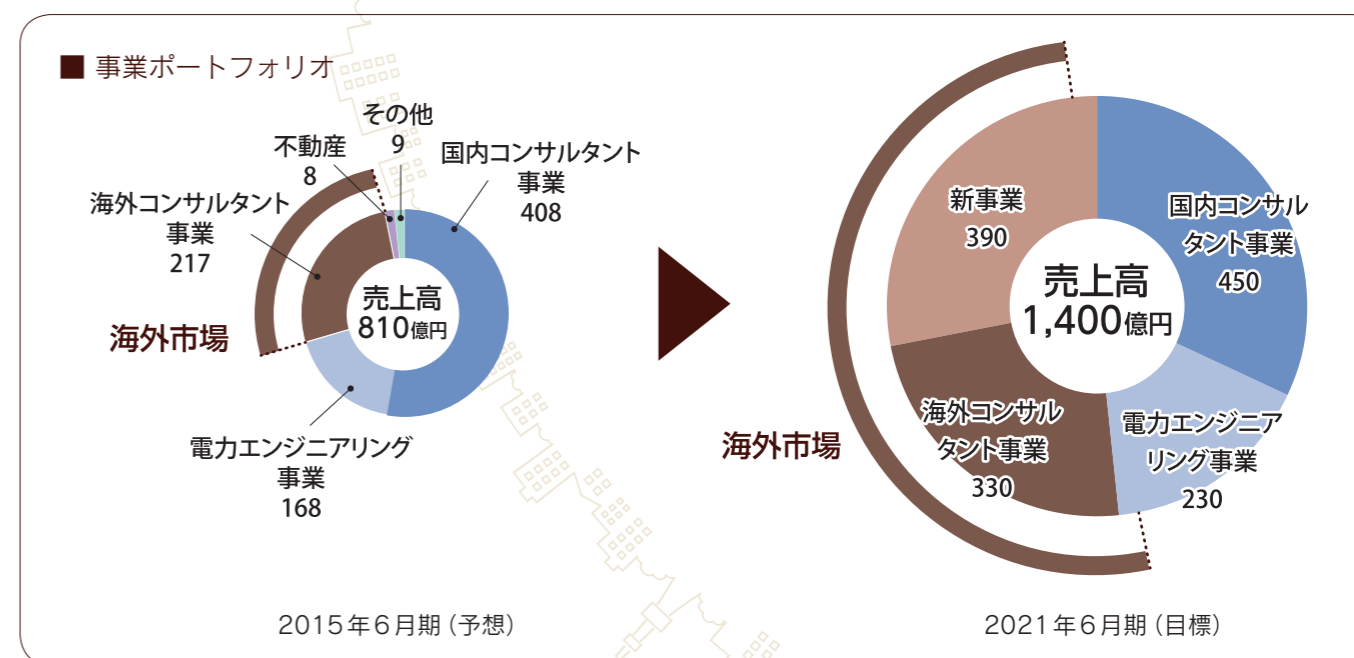
2021年6月期は、グループで売上高1,400億円、営業利益140億円を目指す

長期経営戦略の最終年度となる2021年度における連結売上高は、1,400億円、営業利益140億円、ROE10%を目指します。

	2015年6月期 (予想)	2021年6月期 (目標)
売上高 (億円)	810	1,400
国内コンサルタント事業	408	450
海外コンサルタント事業	217	330
電力エンジニアリング事業	168	230
新事業・その他(不動産等)	16	390
営業利益 (億円)	40.0	140
ROE	(注) 5%	10%

(注) 2015年6月期(予想)のROEは、比較のため不動産売却による特別利益を除いております。

これらにより、事業のポートフォリオは、現在売上高の約1/3が海外市場となっていますが、2021年6月期には、売上高の約半分が海外市場での売上になるものと想定しています。



今後、今夏を目途として、本長期経営戦略に基づく新中期経営計画(2015年7月～2018年6月)を策定していきます。

株主の皆さまにおかれましては、引き続きご支援のほど宜しくお願いいたします。

〈将来見通しに関する注意事項〉

本資料に記載されている業績見通しなどの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績などはさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。

TOPIC

2月26日(木)、有元社長が証券アナリスト・機関投資家およびマスコミを対象に、本長期経営戦略をメインテーマとする会社説明会を実施しました。

説明の後の質疑応答では、長期の数値目標(売上高1,400億円、営業利益140億円、ROE10%)が意欲的と評価されたうえで、その実現性と成長戦略の具体策について質問が出されました。

会社説明会のパワーポイント資料は当社ホームページからご覧いただけます。

当社HP: <http://www.n-koei.co.jp>

ホーム ▶ 株主・投資家の皆様へ ▶ IRライブラリー ▶ 会社説明会



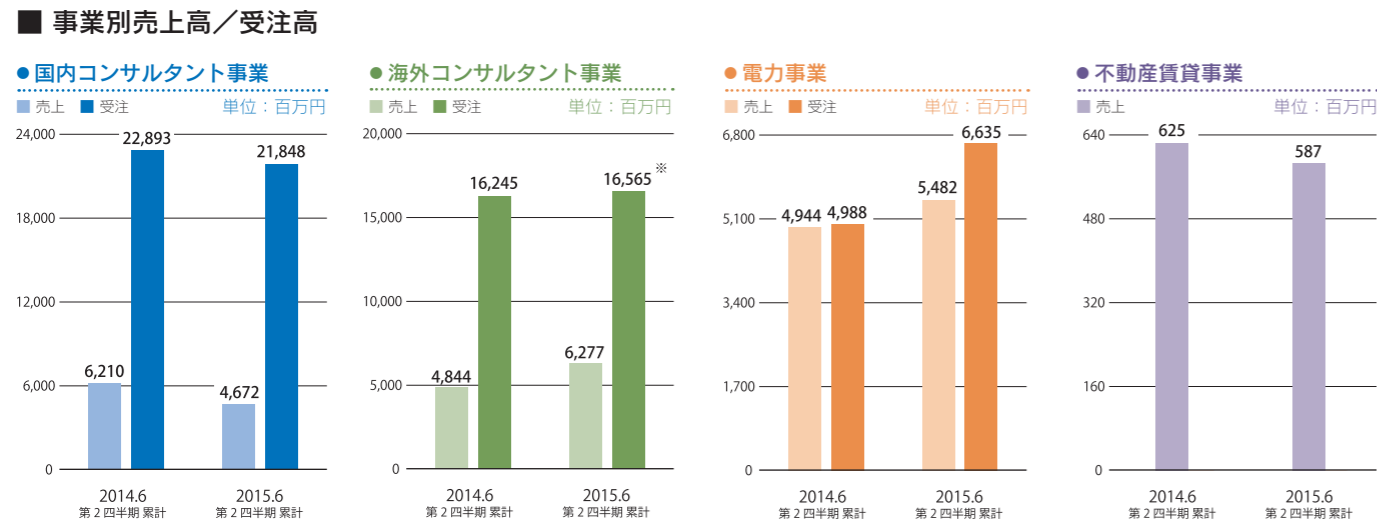
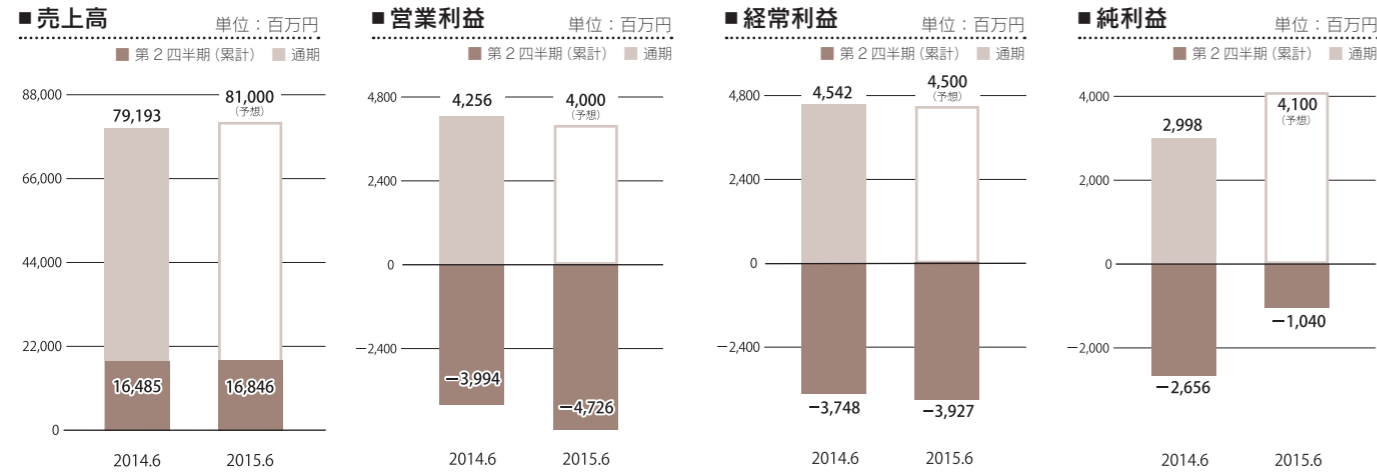
2015年6月期 第2四半期 連結決算ハイライト

2月12日、2015年6月期(第71期)第2四半期(2014年10月～12月)の日本工営グループの業績を発表いたしました。また同日、経常利益および当期純利益の業績予想の修正をお知らせしております。修正の主な理由は、経常利益の増加については非連結子会社からの配当金収入、当期純利益の増加については所有固定資産の譲渡(2件)により売却益が発生したことです。

	2015年6月期第2四半期 (2014.7～2014.12)	2014年6月期第2四半期 (2013.7～2013.12)	2015年6月期業績予想値
売上高(百万円)	16,846	16,485	81,000
営業利益(百万円)	-4,726	-3,994	4,000
経常利益(百万円)	-3,927	-3,748	4,500
当期純利益(百万円)	-1,040	-2,656	4,100
受注高(百万円) ※参考	45,053	44,135	80,000
受注残高(百万円) ※参考	111,493	96,556	—

(注) 数値は四捨五入・切り捨て処理などの関係で、合計が合わない場合があります。

当社グループの事業は、受注の多くが官公庁および電力会社からのもので、納期が年度末(3月)に集中するという特徴があります。このため売上高の計上が特に1月～3月に集中する一方、費用は年間を通じて発生するため、例年、4月～12月に対応する四半期決算では損失を計上しています。



※今期よりNIPPON KOEI VIETNAM INTERNATIONAL CO., LTD.、PT. INDOKOEIおよびPHILKOEI INTERNATIONAL, INC.の3社を連結子会社としたため、連結開始時の受注残1,205百万円、246百万円および427百万円を含めております。

News Gallery

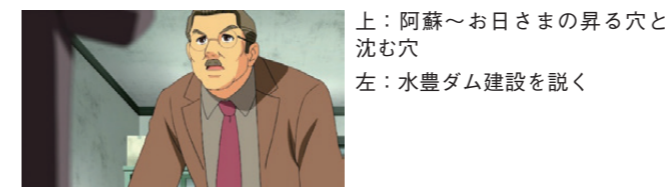
「夢は世界を駆けめぐる～海外技術協力のパイオニア～」久保田豊伝記アニメDVDが完成

当社創業者久保田豊の伝記アニメーションDVDが完成しました。

本DVDは、昨年FIDIC(国際コンサルティング・エンジニア連盟)の100年記念大賞を受賞した久保田豊の功績を世に伝え、若い世代に土木に関心をもってもらうことを目的に、公益社団法人土木学会の協力のもと、当社がスポンサーとなり製作しました。本DVDは文部科学省および土木学会から教育用DVDとしての選定を受けています。今後、全国の学校や図書館への頒布を進めていきます。



DVD ジャケット



上: 阿蘇～お日さまの昇る穴と沈む穴
左: 水豊ダム建設を説く

広島豪雨の緊急災害対応に対し、感謝状を受領しました：広島支店

昨年8月に広島市を襲った局地的かつ短時間の豪雨により、広島市北部の住宅地の裏山が崩れ、同時多発的に大規模な土石流が発生するなど、甚大な土砂災害が生じました。

当社はこの災害に対し、広島支店を中心に、全国から防災・砂防技術者を緊急招集し、猛暑の中、被災直後の不安定土砂の確認と家屋の被災調査などの現地確認調査、応急復旧工法の検討などを迅速かつ的確に実施し、発注者の要望に応えました。このたびこの功績が評価され、中国地方整備局より災害対策関係功労者表彰を受領しました。



全国から集結した技術者たち



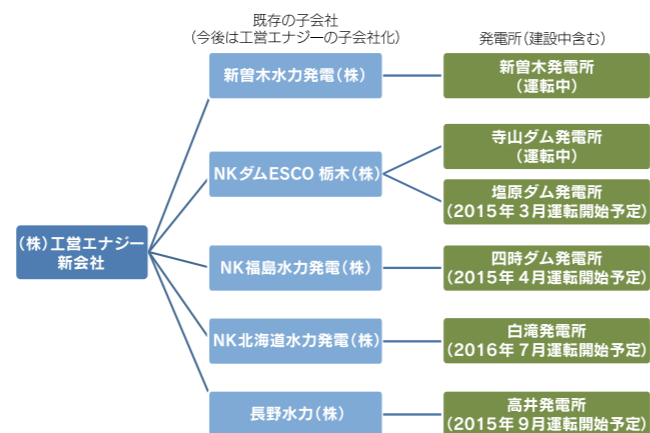
現場踏査の様子

黒川紀章事務所より事業を譲り受け

故黒川紀章氏が築きあげた事業実績とブランドを商号とともに譲り受けるため、2015年1月9日付で株式会社黒川紀章建築都市設計事務所（以下「新黒川事務所」）を設立しました。新黒川事務所の代表には、当社の山田技師長が就任しました。

これまで黒川事務所とは、主に海外の都市開発分野で協働関係を築いてきました。特に2000年～2001年に実施したODAによるアスタナ新首都建設計画のマスタープラン業務（カザフスタン共和国）では、JVを組み、高い評価を得るところとなりました。世界の設計コンサルタント産業は、土木と建築の両分野を備えて、より幅広い事業により、多くの収益を生み出しています。当社と黒川事務所は、ともに土木と建築を統合した技術サービス業態を志向してきました。今回の事業譲受を契機に、黒川事務所の事業能力とブランドを獲得して国内での地歩を固めるとともに、世界のインフラ整備需要を牽引する都市・建築分野への本格参入を目指します。

これまで地域ごとに5社あった水力発電事業会社を工営エナジーの傘下に収め、事業運営の効率化と再生可能エネルギーに係わる情報の集約化を図り、さらなる事業の拡大を目指します。



(株)工営エナジーと子会社、各発電所の関係

カーボベルデ共和国サンティアゴ島上水道システム整備事業を受注

カーボベルデ共和国は、アフリカ大陸の西の沖合に位置する島国です。年間の平均降水量が非常に少なく、また火山島群島であることから地下水の利用も限られ、慢性的な水不足の状況にあります。このため、海水の淡水化による飲料水供給能力の増強が望まれています。

本プロジェクトでは、首都プライアが位置するサンティアゴ島に、海水取水施設の建設や、海水淡水化プラントの新設および既設プラントの処理能力の拡張、各施設間を結ぶ総延長130.4kmのパイプラインの建設を行います。島全体をカバーする送水網の建設により、飲料水供給の安定化および安全な水へのアクセス改善を図ります。契約期間は2019年11月までで、当社とグループ会社の中南米工営(株)、その他1社のJVで施工監理等のコンサルティングサービスを行います。

本プロジェクトは円借款による初めての海水淡水化事業であり、当社はこれまで上水道分野で蓄積してき

た技術力をベースに海水淡水化技術に積極的に取り組み、深刻な水不足に悩む国々の発展に貢献すべく力を尽くします。



調印式に臨む角田取締役相談役

【事業位置図】



【事業概要図】



ベトナム国南北高速道路(ホーチミン～ゾーザイ間)が完成

2月8日、ベトナム国南北高速道路(ホーチミン～ロンタイン～ゾーザイ間)の全線開通式が行われました。

ベトナムでは、ホーチミン市を含む南部地域において、経済発展に伴い交通量が増加し、渋滞の発生が深刻化しています。これらの地域では今後も交通需要の増加が予測されており、高速道路建設が進められています。当社は、ベトナムの南北高速道路網のうち最優先区間である、ホーチミン～ゾーザイ間(55km)の施工監理を含むコンサルティングサービスを実施しました。

2009年12月に工事が始まり、2015年2月に全線開通を迎えました。本線の開通により、ホーチミン市からゾーザイまでの間は、走行距離が70kmから50kmに、移動時間は3時間から1時間に短縮されることとなります。国道1号線および51号線における交通需要への対応、物流の効率化および交通渋滞の緩和に繋がるものと期待されています。



環状2号線とのインターチェンジ(ベトナム高速道路公社:VEC 提供)



ベトナム国ズン首相と談笑する有元社長

株式会社工営エナジーを設立

1月15日、当社は水力発電を中心とする再生可能エネルギー開発のさらなる展開を図るため、「株式会社工営エナジー」を設立し、吉田副会長が社長に就任しました。

当社はこれまでに2013年5月の新曾木発電所(鹿児島県)、2013年9月の寺山ダム発電所(ダムESCO事業、栃木県)を稼働させており、現在はダムESCO事業として塩原ダム発電所(栃木県)、四時ダム発電所(福島県)の建設に加え、長野県、北海道でも水力発電所の建設・更新を進めています。



(株)工営エナジー
シンボルマーク

誠意をもってことにあたり、
技術を軸に社会に貢献する。